

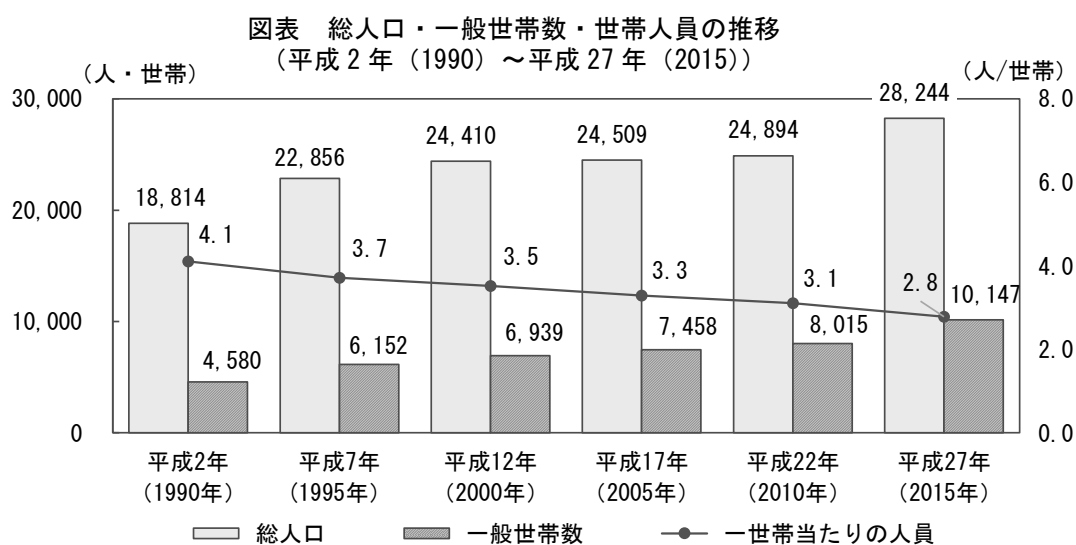
第2章 大和町の障がいのある人を取り巻く環境

1 大和町の概況

(1) 総人口・世帯数の推移

国勢調査における平成2年（1990）以降の本町の総人口は、増加傾向にあります。平成27年（2015）では28,244人となっており、平成17年（2005）からの10年間で3,735人（年平均約370人）増加しています。

一般世帯数は増加傾向にあり、平成27年（2015）の一般世帯数は10,147世帯となっていますが、一世帯あたり人員は2.8人と減少が進んでいます。



(単位：人・世帯)

区分	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
総人口	18,814	22,856	24,410	24,509	24,894	28,244
15歳未満	3,511	4,187	4,179	3,724	3,657	4,274
15～64歳	12,569	14,998	15,857	15,949	16,077	17,602
65歳以上	2,730	3,671	4,374	4,836	5,152	5,952
一般世帯数	4,580	6,152	6,939	7,458	8,015	10,147
一世帯あたり人員	4.1	3.7	3.5	3.3	3.1	2.8

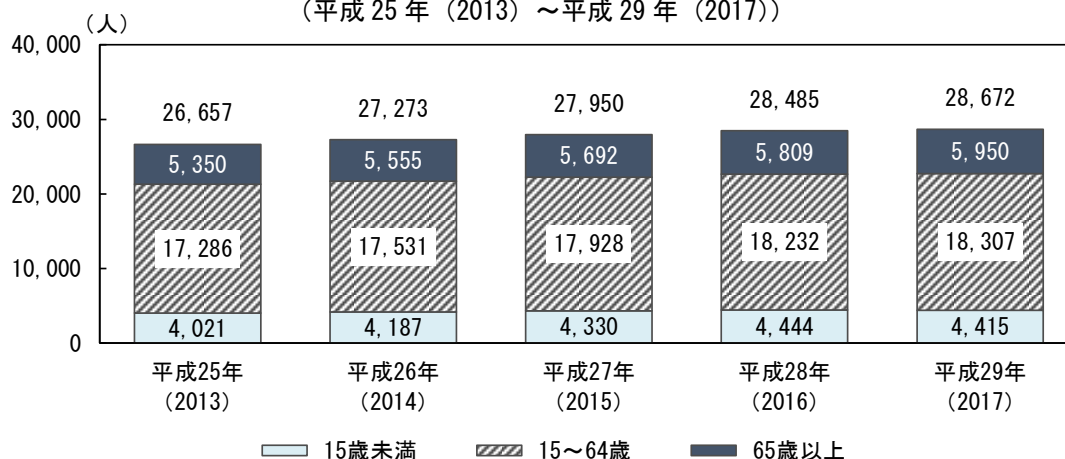
※ 総人口は、年齢別人口に年齢不詳人口を含めた合計となっています。

資料：国勢調査

(2) 住民基本台帳による人口構造（年齢3区分）

直近の人口推移の把握として、平成25年（2013）以降の住民基本台帳における本町の総人口の推移をみると、平成25年からの5年間で2,015人増加し、平成29年（2017）では28,672人となっています。また、人口構造から高齢化の進行がみられます。

図表 総人口の推移
（平成25年（2013）～平成29年（2017））



（単位：人・％）

区分	平成25年（2013）	平成26年（2014）	平成27年（2015）	平成28年（2016）	平成29年（2017）
総人口	26,657	27,273	27,950	28,485	28,672
15歳未満	4,021	4,187	4,330	4,444	4,415
15～64歳	17,286	17,531	17,928	18,232	18,307
65歳以上	5,350	5,555	5,692	5,809	5,950
高齢化率	20.1	20.4	20.4	20.4	20.8

資料：住民基本台帳（各年3月末現在）

(3) 産業構造

国勢調査による本町の産業構造は、第3次産業を中心とした産業構造となっており、平成27年（2015）における就業者数は8,769人、全就業者（平成27年（2015）：13,990人）の62.7%を占めています。

産業別就業人口は次のとおりであり、平成22年（2010）から各産業ともに増加しています。

図表 産業構造（就業人口）の推移
（平成2年（1990）～平成27年（2015））

（単位：人）

区分	平成2年（1990年）	平成7年（1995年）	平成12年（2000年）	平成17年（2005年）	平成22年（2010年）	平成27年（2015年）
就業者数	9,528	11,207	11,869	12,059	11,696	13,990
第1次産業	1,645	1,310	812	841	652	669
第2次産業	3,006	3,675	4,251	3,736	3,247	4,302
第3次産業	4,876	6,219	6,754	7,444	7,683	8,769
分類不能	1	3	52	38	114	250

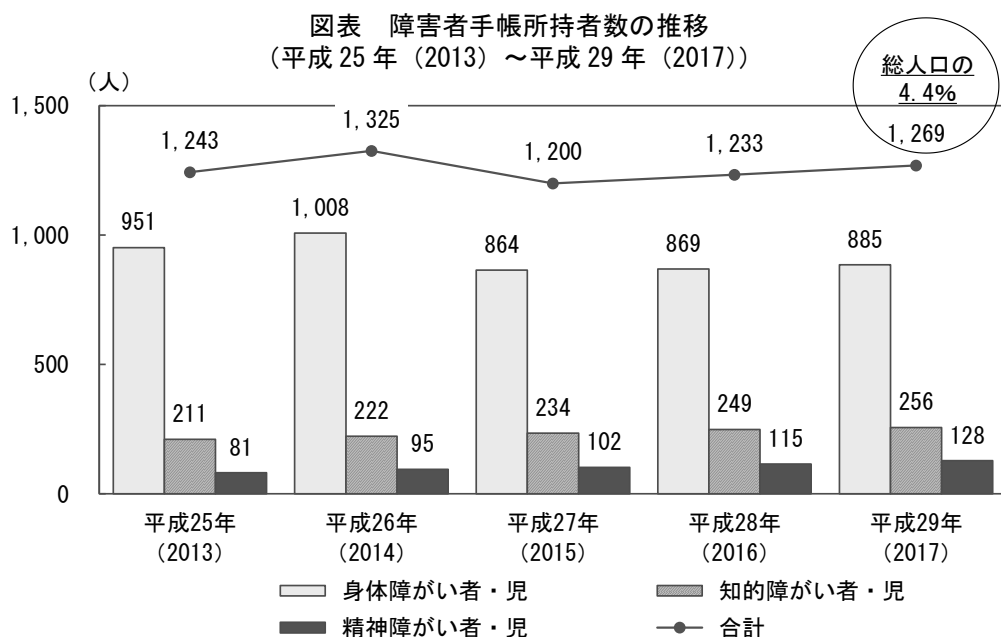
資料：国勢調査

2 大和町の障がいのある人の状況

(1) 障害者手帳所持者数

本町の障がいのある人の状況を、平成 25 年（2013）以降（各年 3 月末日現在）の手帳交付者数の推移からみると、身体障害者手帳所持者については、各年度で増減がみられる一方、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者は、ともに増加しており、平成 29 年（2017）は 1,269 人（重複含む）の方が障害者手帳の交付を受けています。

なお、平成 29 年（2017）における住民基本台帳の総人口（28,672 人）に占める障害者手帳所持者の割合は、4.4%となっています。



(単位：人)

区分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
合計	1,243	1,325	1,200	1,233	1,269
身体障害者手帳所持者	951	1,008	864	869	885
療育手帳所持者	211	222	234	249	256
精神障害者保健福祉手帳所持者	81	95	102	115	128

資料：保健福祉課（各年 3 月末日現在）

(2) 身体障がいのある人

平成 29 年 (2017) 3 月末現在の身体障害者手帳所持者数は 885 人、本町の障がいのある人の 69.7%を占めています。

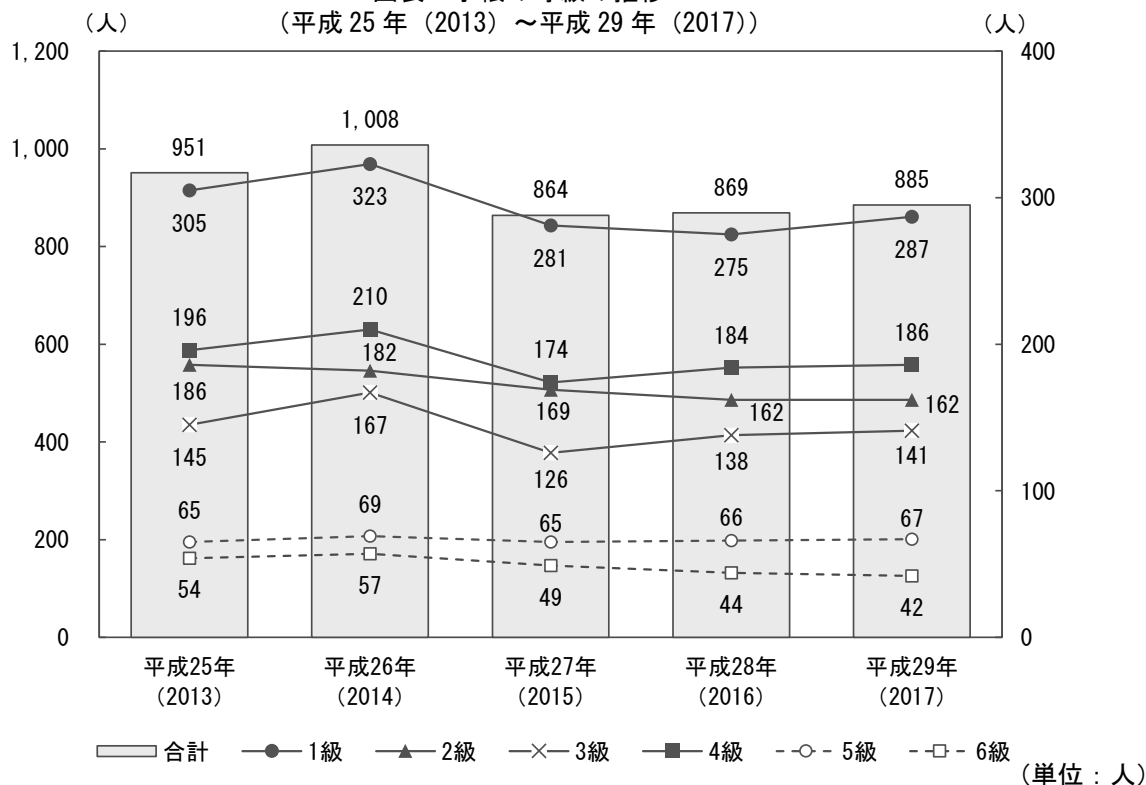
また、平成 29 年 (2017) においては、手帳の等級は 1 級、障がいの種類は肢体不自由が最も多くなっています。また、他の市町村と比較し、聴覚に障がいのある人が多い状況です。

図表 身体障害者手帳所持者数の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))

(単位：人・%)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
身体障がい者・児	951	1,008	864	869	885
障がい者全体に占める割合	76.5	76.1	72.0	70.5	69.7

図表 手帳の等級の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))



区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
1 級	305	323	281	275	287
2 級	186	182	169	162	162
3 級	145	167	126	138	141
4 級	196	210	174	184	186
5 級	65	69	65	66	67
6 級	54	57	49	44	42

資料：保健福祉課（各年 3 月末現在）

図表 障がいの種類の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))

(単位：人)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
視覚障がい	49	55	47	44	44
聴覚障がい	87	88	80	85	83
平衡機能	2	2	1	1	1
音声言語	9	11	7	8	9
肢体不自由	512	540	460	459	477
内部障がい	292	312	269	272	271

資料：保健福祉課（各年 3 月末現在）

(3) 知的障がいのある人

療育手帳所持者数による知的障がいのある人の状況は、年々増加しており、平成 29 年 (2017) 3 月末日現在の手帳所持者数は 256 人、本町の障害手帳所持者数の 20.2%を占めています。

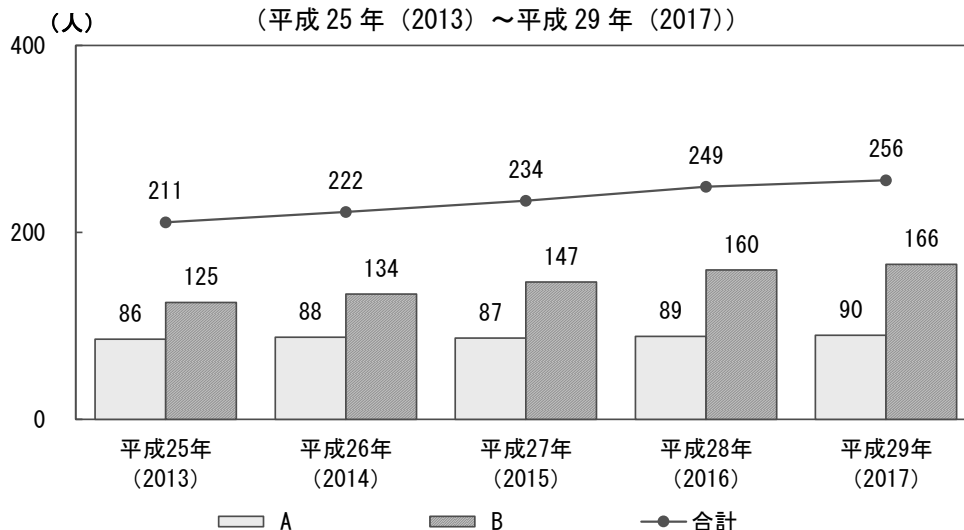
障がい程度別にみると、平成 29 年 (2017) の判定別では、重度である A 判定の方が 90 人、B 判定の方が 166 人となっており、A 判定、B 判定ともに増加傾向となっています。

図表 療育手帳所持者数の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))

(単位：人・%)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
知的障がい者・児	211	222	234	249	256
障がい者全体に占める割合	17.0	16.8	19.5	20.2	20.2

図表 判定別の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))



(単位：人)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
A	86	88	87	89	90
B	125	134	147	160	166

資料：保健福祉課（各年 3 月末現在）

(4) 精神障がいのある人

精神障害者保健福祉手帳所持者数による精神障がいのある人の状況は、年々増加傾向にあり、平成 29 年 (2017) 3 月末日現在の手帳所持者数は 128 人、本町の障害者手帳所持者数の 10.1% を占めています。

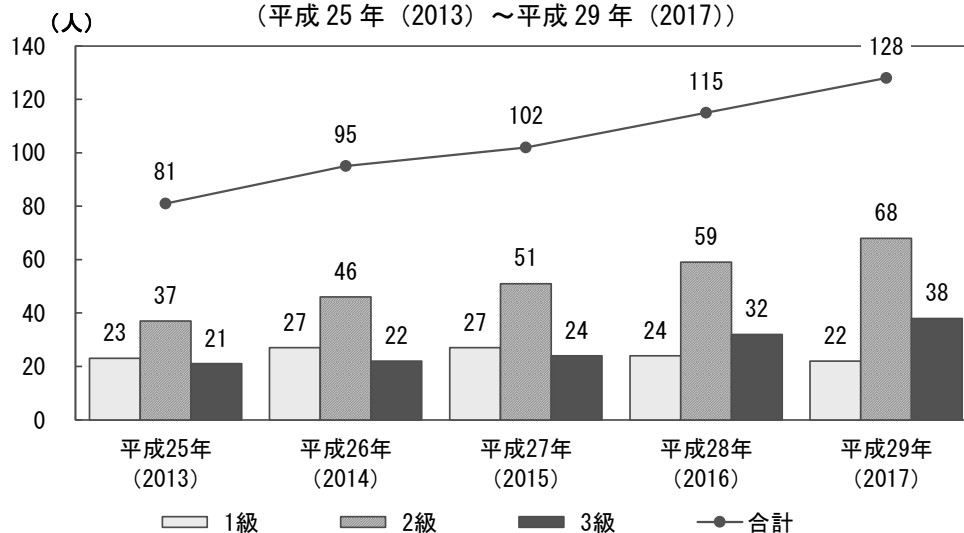
手帳の等級別にみると、各年ともに 2 級が最も多く、平成 29 年 (2017) では、68 人となっています。

図表 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))

(単位：人・%)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
精神障がい者	81	95	102	115	128
障がい者全体に占める割合	6.5	7.2	8.5	9.3	10.1

図表 判定別の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))



(単位：人)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
1 級	23	27	27	24	22
2 級	37	46	51	59	68
3 級	21	22	24	32	38

なお、本町における自立支援医療（精神通院医療）認定者数は増加傾向にあり、平成 29 年 (2017) 3 月末日現在は 265 人となっています。

図表 自立支援医療（精神通院医療）認定者数の推移
(平成 25 年 (2013) ~平成 29 年 (2017))

(単位：人)

区 分	平成 25 年 (2013)	平成 26 年 (2014)	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
精神通院医療対象者	228	236	268	261	265

資料：保健福祉課（各年 3 月末日現在）

(5) 難病等

本町における難病患者等は概ね横ばいの推移となっており、平成 29 年 (2017) 3 月末日現在の特定疾患医療受給者証数は 170 人、小児慢性特定疾患医療受給者数は 21 人となっています。

図表 特定疾患医療受給者証数・小児慢性特定疾患医療受給者数の推移
(平成 27 年 (2015) ~平成 29 年 (2017))

(単位：人)

区 分	平成 27 年 (2015)	平成 28 年 (2016)	平成 29 年 (2017)
特定疾患医療受給者証	169	170	170
小児慢性特定疾患医療受給者	22	21	21

資料：宮城県（各年 3 月末日現在）

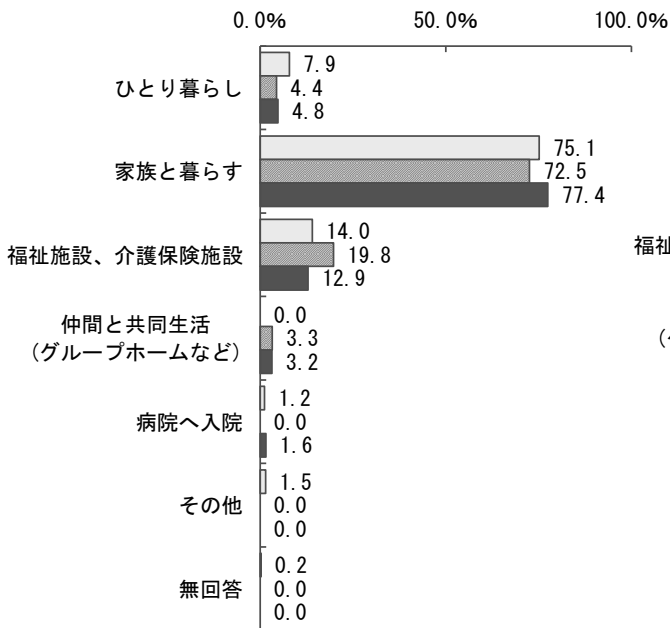
3 アンケート調査にみられる現状

(1) 現在の暮らしの場と今後の生活の場、日中の居場所・生活への満足度について

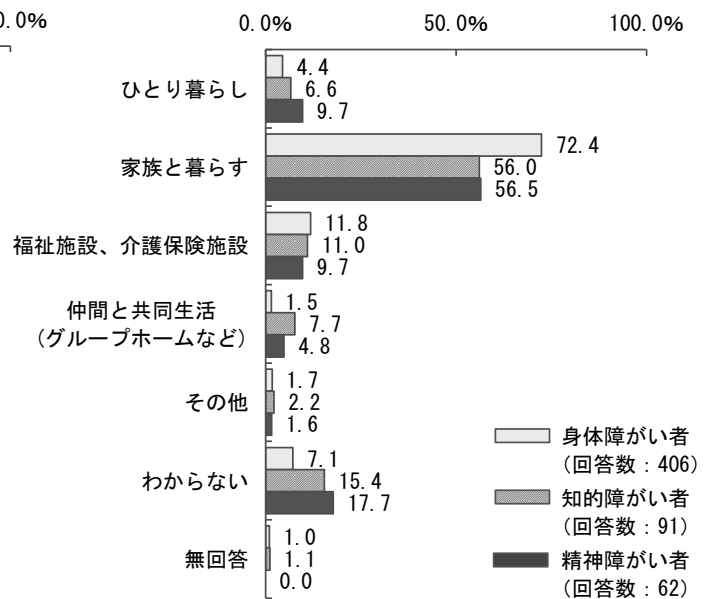
身体・知的・精神障がい別に現在の暮らしの場と今後の生活の場をみると、現在、今後の暮らしともに“家族”との暮らしが最も多くなっています。

また、現在の暮らし方と今後の暮らしの場を比較すると、現在の暮らしの場で今後も暮らしたい意向がみられます。

図表 現在暮らしている場所
(障がい別)

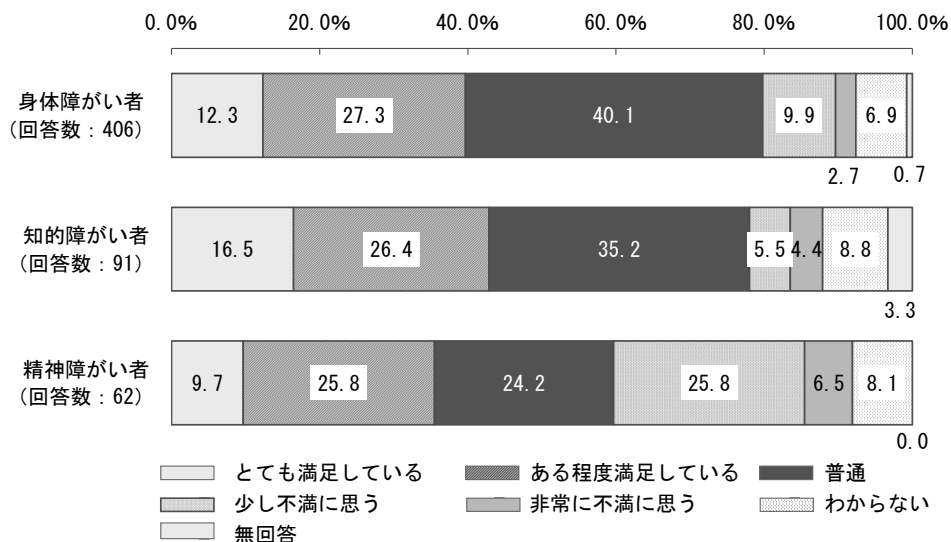


図表 今後の暮らし方
(障がい別)



なお、身体・知的・精神障がい別に生活の満足度をみると、「とても満足している」、「ある程度満足している」を合わせた割合は、各障がいともに3割強～4割を占めています。

図表 生活への満足度
(障がい別)



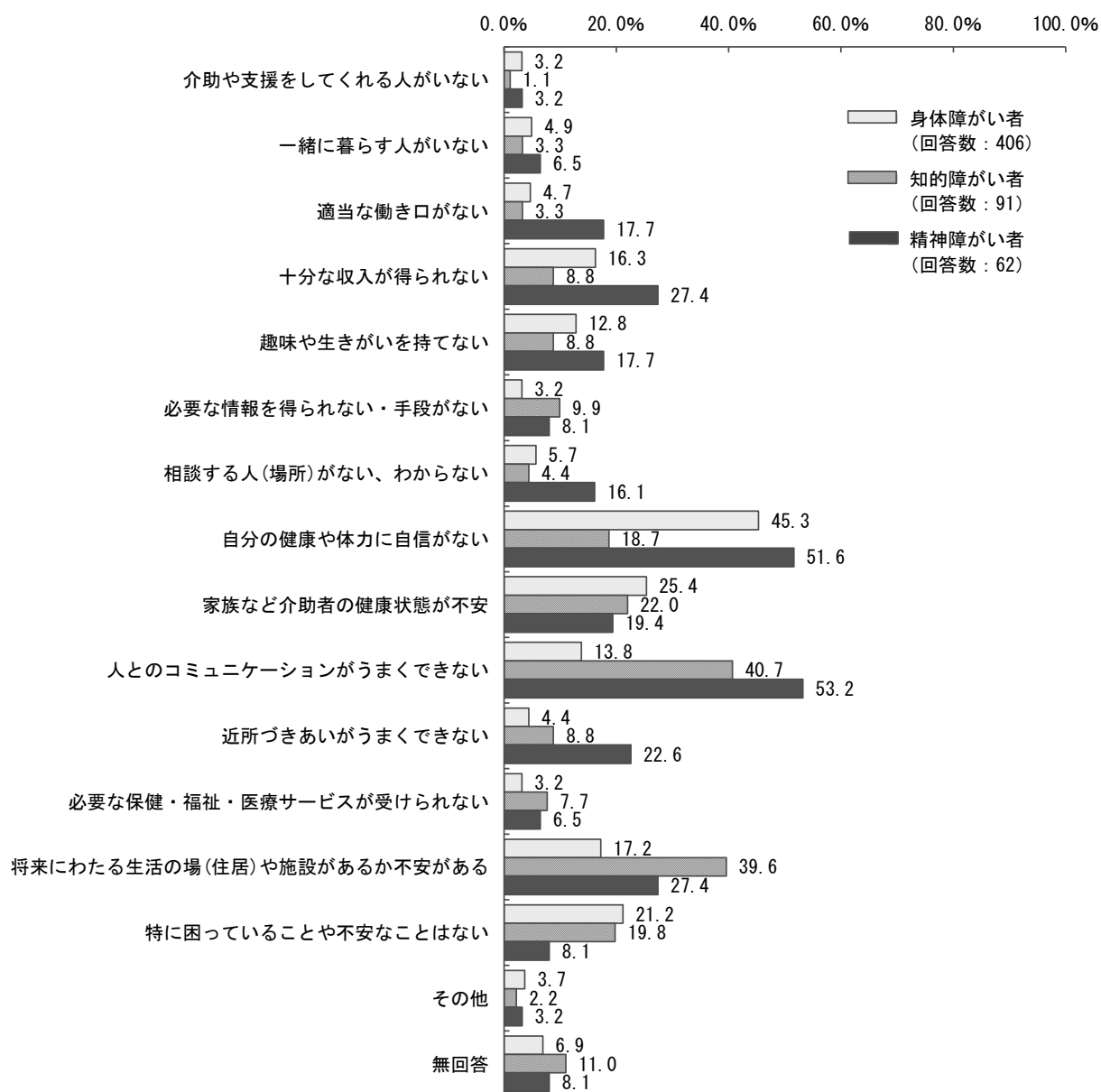
(2) 現在の生活で困っていることや不安に思っていること

現在の生活で困っていることや不安に思っていることについて、各障がいとともに自身や家族の健康、将来の居場所、経済的なことを上位に挙げています。

障がい別にみると、“自身や家族の健康”については、身体・精神障がいのある人で上位に挙げているほか、“将来の居場所”については知的障がいのある人、“経済的なこと(収入)”については身体・精神障がいのある人で上位に挙げています。

そのほか、知的・精神障がいのある人では「コミュニケーションがとれない」ことを上位に挙げています。

図表 現在の生活で困っていることや不安に思っていること
(障がい別)



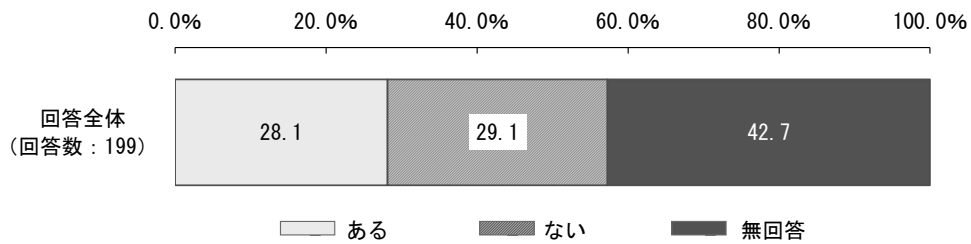
(3) 介護や手助けについて

介護者の状況では、介護や手助けをするうえで、負担に思うことが「ある」と回答した割合は3割（28.1%）を占めています。

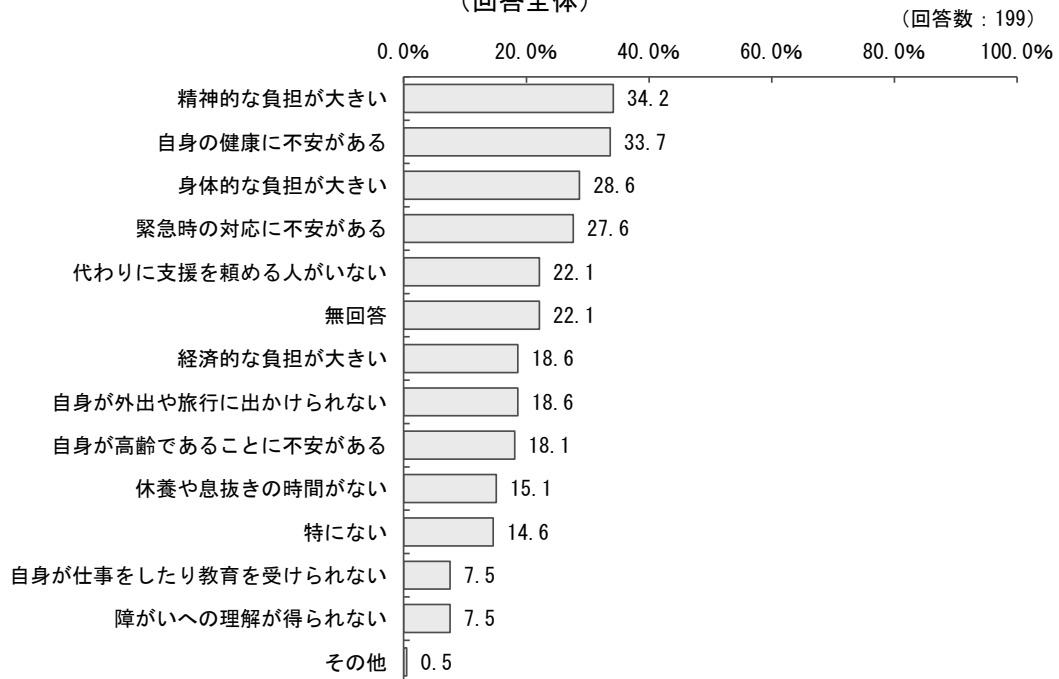
また、介護や手助けについて感じていることでは、“精神的な負担”や“介護者自身の健康”、“身体的な負担”、“緊急時の対応”、“精神的な負担感”を上位に挙げています。

その他、介護者自身が高齢であることを不安として挙げる割合が2割（18.1%）を占めています。

図表 介護や手助けをするうえで、負担に思うこと
(回答全体)



図表 介護や手助けについて、感じていること
(回答全体)

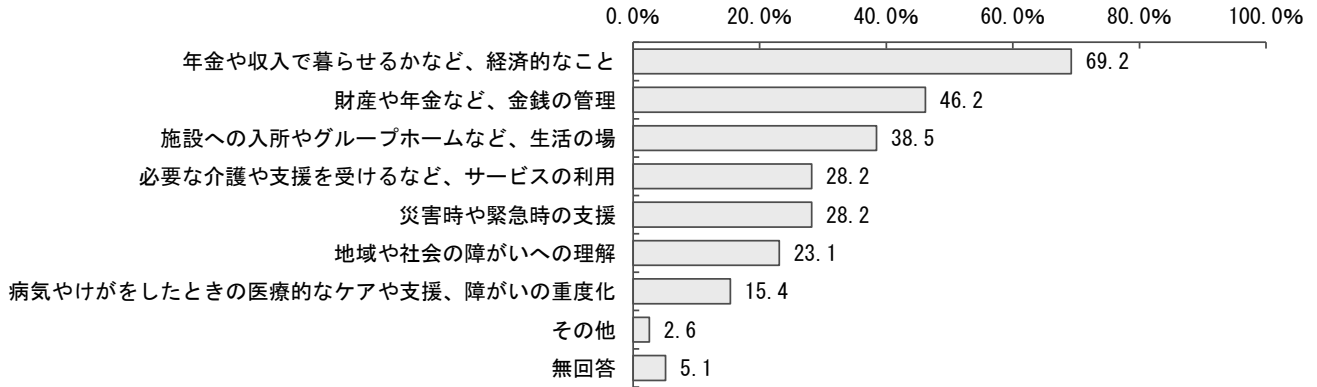


(4) 親亡き後の支援について

家族や親亡き後の将来について不安に思うこととして、「年金や収入で暮らせるかなど、経済的なことについて」(69.2%)、「財産や年金など、金銭の管理」(46.2%)、「施設への入所やグループホームなど、生活の場」(38.5%)が上位に挙がっています。

図表 親亡き後の支援について
(回答全体)

(回答数：39)

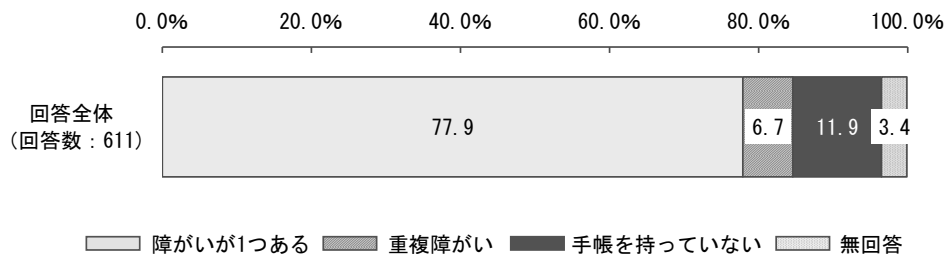


(5) 重複障がいのある人の状況

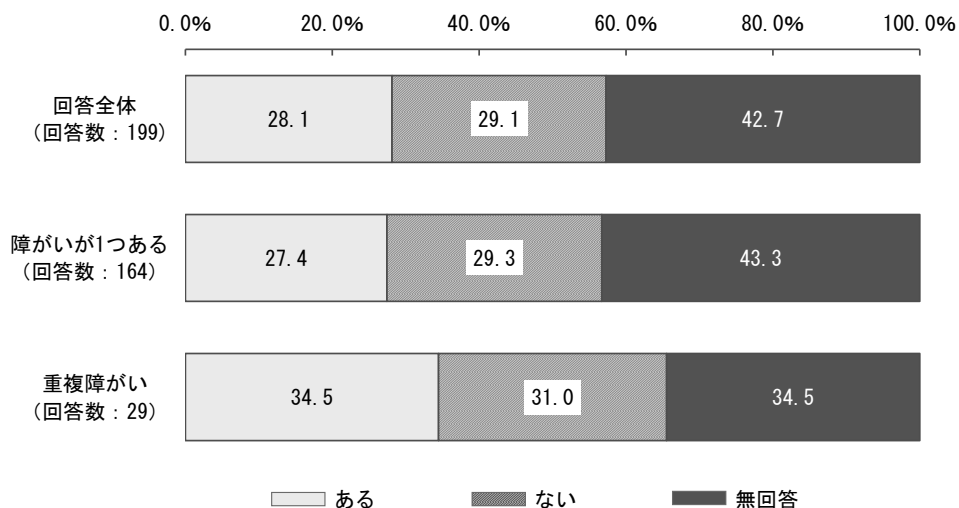
回答のあった障がいのある人のうち、重複障がいのある人は回答全体の6.7%を占め、複数の障がいにより、求められる支援は多岐にわたります。

また、介護する方にとっても負担を感じる割合についても回答全体より高くなっています。

図表 重複障がいについて



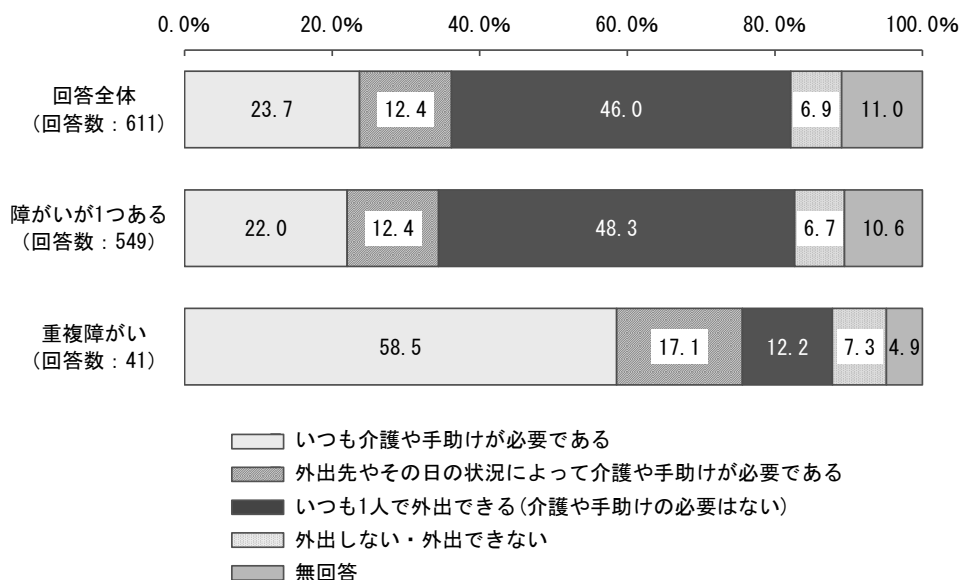
図表 介護や手助けをするうえで、負担に思うこと



本町においては、日常の外出の際の介護や手助けでは、「いつも介護や手助けが必要である」割合が特に高く、多様な支援が求められています。

また、ふだんの生活や医療機関にかかる際のコミュニケーションのほか、専門的な治療が身近にないこと、複数の病院に通うことに困っている状況がみられます。

図表 日常の外出の際の介護や手助けについて



図表 現在の生活で困っていることや不安に思っていること (上位3項目)

	第1位	第2位	第3位
回答全体 (n=611)	自分の健康や体力 42.7%	家族など介助者の健康状態 22.1%	人とのコミュニケーション 20.6%
障がいがある (n=549)	自分の健康や体力 44.4%	家族など介助者の健康状態 22.0%	十分な収入 20.9%
重複障がい (n=41)	人とのコミュニケーション 将来にわたる生活の場(住居)や施設 ともに 43.9%		自分の健康や体力 29.3%

図表 医療やリハビリテーションを受けるときに困っていること (上位3項目)

	第1位	第2位	第3位
回答全体 (n=611)	医療費の負担が大きい 16.7%	医師や看護師などに病気の症状を正しく伝えられない 13.3%	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない 11.6%
障がいがある (n=549)	医療費の負担が大きい 16.8%	医師や看護師などに病気の症状を正しく伝えられない 12.9%	いくつもの病院に通わなければならない 11.3%
重複障がい (n=41)	医師や看護師などに病気の症状を正しく伝えられない 17.1%		専門的な治療をしてくれる病院が近くにない いくつもの病院に通わなければならない ともに 14.6%

